



『きたマップ』公開記念シンポジウム

北海道の環境保全活動データベース

sat
4/13

SAVE
THE NATURAL
ENVIRONMENT
OF HOKKAIDO

北海道の
自然環境を守ろう。

北海道の豊かな自然環境を保全していくためには、各地域でどのような課題があり、どのような活動が行われているのか、理解することが大変重要です。この度、このような北海道の各地域の環境情報が豊富に蓄積され、手軽に検索出来るデータベース「きたマップ」が北海道環境市民ネットワークと酪農学園大学環境共生学類環境GIS研究室によって開発され、ご利用が可能となりました。この「きたマップ」の公開を記念して、シンポジウムを開催いたします。

(公益財団法人自然保護助成基金)

<http://kitamap.net/>

2019.4.13 [土]

北海道大学学術交流会館小講堂
参加費無料 参加申込不要

終了後懇親会 事前申込要(詳細は裏面参照)



PROGRAM

第1部 13:00~15:00

北海道の
自然環境保全について考えよう

北海道における自然保護上の課題を共有し、各地域での研究、活動事例について紹介します。

基調講演

「北海道における、
自然保護の課題について」

佐藤 謙(北海道大学名誉教授)

北海道内の自然保護に関わる研究・
活動事例紹介

- ①「北海道東部海域におけるシャチの生態と行動」
三谷 隼子(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授)
- ②「ロシアアムール川流域で繁殖する
オジロワシの渡り移動経路と生息環境の保全」
白木 彩子(東京農業大学生産学部准教授)
- ③「大雪山 沼の平の保全について
～自然は子孫からの預かりもの～」
三木 昇(北の森自然伝習所所長)
- ④「羅臼町マッカウス洞窟のヒカリコケの再生」
丸山 立一(株式会社構研エンジニアリング)

北海道のナショナル・トラスト地について

中安 直子(公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会)



PROGRAM

第2部 15:15~17:00

北海道の環境保全活動データベース
「きたマップ」を活用する

北海道の環境活動の新しいプラットフォーム、
「きたマップ」を活用して、環境保全活動を活性化しよう。

北海道の環境保全活動データベース
「きたマップ」の紹介

- ①「きたマップ」とは/コンテンツ紹介
宮本 尚(NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」理事)
- ②「きたカルテ」について
金子 正美(酪農学園大学環境GIS研究室教授、「きたネット」理事長)
- ③「北の環境ライブラリ」について
在田 一則(一般社団法人北海道自然保護協会会長)

総合討論

「北海道の自然環境保全のために、
きたマップをどのように活用するか」

登壇者：佐藤 謙、金子 正美、在田 一則、宮本 尚
コーディネーター：板垣 佳那子
(公益財団法人自然保護助成基金研究員)

【主催】公益財団法人自然保護助成基金、一般社団法人北海道自然保護協会、NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

【後援】環境省北海道地方環境事務所、北海道、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会、環境中間支援会議・北海道(環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、NPO法人北海道市民環境ネットワーク)



本シンポジウムは、基調講演を通して北海道における自然保護上の課題を共有し、各地域での研究、活動事例について紹介する第1部「北海道の環境について考えよう」と、実際に北海道における環境保全活動に役立つ、「北海道の環境保全活動データベース『きたマップ』」の活用方法を紹介する第2部の、2部構成となっています。

2019年4月13日(土) 13:00 ~ 17:00 (12:30受付開始) 北海道大学学術交流会館小講堂 参加費無料 参加申込不要



『きたマップ』公開記念シンポジウム

「自然保護助成基金設立25周年記念イベント」

北海道の環境保全活動データベース

【主催団体プロフィール】

公益財団法人 自然保護助成基金

http://www.pronaturajapan.com/

自然をこよなく愛する篤志家により、1993年に設立して以来25年間自然保護に資する研究および活動に助成を行っている。2016年～2018年にかけて、きたネットと酪農学園大学による「きたマップ」の開発と、北海道自然保護協会の調査・活動記録のデータベース化およびきたマップの「北の環境ライブラリ」への掲載に対して助成を行なった。

一般社団法人 北海道自然保護協会

https://sapporo1.com/NC/

1964年北海道の自然環境や生物多様性の保全を目的として、多分野の専門家や自然愛好家により設立。道内各地域の自然保護団体とともに「大雪縦貫道路」、「土幌高原道路」、「千歳川放水路」、「日高横断道路」、「知床国有林伐採」などの問題に取り組んできた。

NPO法人 北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

http://kitanet.org

「北海道の環境を未来に引き継ぐために」活動する札幌のNPO法人。2002年発足。道内の各団体の基盤を強化し、活動の活性化を図るためのネットワークづくり、主に自然環境保全に関わる、各種セミナーや講演会の開催、情報提供等の中間支援活動、環境教育プログラムの企画・実施、企業CSRの提案・協力、全道一斉清掃などの事業を行っている。2019年2月1日現在、57市民団体、15賛助企業・団体が所属。

【登壇者プロフィール・活動概要】

【基調講演】



「北海道における自然保護の課題について」

佐藤 謙 Sato Ken

(北海道大学名誉教授・北海道大学総合博物館資料部研究員)

1948年岩手県奥州市生まれ、1971年北海道大学農学部卒業、1973年北海道大学大学院農学研究科修士、1973-2016年北海道大学勤務。研究テーマ：北海道の高山植物と維管束植物相。著書：北海道高山植物誌(2007年、北大出版会)など。自然保護活動：北海道自然保護協会理事、アボイ科学委員会委員長など。

【北海道内の自然保護に関わる研究・活動事例紹介】



「北海道東部海域におけるシャチの生態と行動」

三谷 曜子 Mitani Yoko

(北海道大学北方生物圏フィールド科学センター准教授)

京都大学で修士と修士、総合研究大学院大学で博士(理学)取得。その後、国立極地研究所、東京大学附属海洋研究所、日本学術振興会特別研究員(テキサスA&M大学、東京工業大学)を経て、2008年北海道大学北方生物圏フィールド科学センター助教授着任。2013年より現職。海棲哺乳類の回遊や、環境との相互作用について研究を行っている。



「ロシアアムール川流域で繁殖するオジロシの渡り移動経路と生息環境の保全」

白木 彩子 Shiraki Ayako

(東京農業大学生物産学部准教授)

大学院生時代から、海ワシ類やイヌワシなど大型猛禽類の生態研究や保全活動に従事。近年ではロシアの研究者らと、日露に跨る海ワシ類の広域的な生息環境保全に向けたさまざまな研究を展開している。ふだんは細走にある大学に勤めており、学生と一緒に哺乳類やほ乳類などの野生動物の調査も行っている。



「大雪山 沼の平の保全について～自然は子孫からの預かりもの～」

三木 昇 Miki Noboru

(北の森自然伝習所所長・沼の平保全活動グループ)

1970年代に大学卒業後北海道の会社に就職。爾来、北海道の自然に親しみ、幾星霜、来道当初から、山岳地の浸食や植生の消失が指摘されて、多少の努力はされてきた。しかし、継続的な動きはされてこなかったように見える。老年となり人任せでは進まない「道民の宝は道民で守る」と、これまでの経験を活かし自らできる事をしたいとプロジェクトを立ち上げた。「自然は子孫からの預かりもの」であることを想いなおしたい。



「羅臼町マックス洞窟のヒカリゴケの再生」

丸山 立一 Maruyama Ryuichi

(株式会社構研エンジニアリング環境保全部長)

建設コンサルタント会社に勤めて25年になります。マックス洞窟のヒカリゴケは平成16年から係わり、平成27年には「羅臼のひかりごけ保存会」を立ち上げ、再生に取り組んでいます。近頃は、ヒカリゴケに加え、北海道各地で発生しているエゾシカによる自然植生への被害の実態把握に努めています。

【北海道のナショナル・トラスト地について】



中安 直子 Nakayasu Naoko

(公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会)

山口県出身。大学では地理学を専攻。1998年より(公財)日本生態系協会自然を活かした地域づくりの企画や調査に携わる。2007年より(公社)日本ナショナル・トラスト協会の事務局を兼務。日本の豊かな自然や野生動物を守るため、これまで全国51カ所のトラスト地(主に山林・原野)の取得に関わるほか、トラスト活動を知ってもらうための普及啓発や、企業との連携にも力を入れている。

【北海道の環境保全活動データベース「きたマップ」紹介】



宮本 尚 Miyamoto Naoto

(NPO法人北海道市民環境ネットワーク理事・事務局)

オホーツク出身、東海大学文学部史学専攻。コピーライター、三鷹市社会福祉協議会での障害児(者)緊急一時保護担当職員等を経て、北海道にUターン。2005年からNPO法人北海道市民環境ネットワーク事務局勤務、2009年から理事。



金子 正美 Kaneko Masami

(酪農学園大学環境GIS研究室教授)

1957年、赤平市生まれ。帯広畜産大学卒業、北海道大大学院環境科学修士課程修了。北海道庁環境政策課、北海道立環境科学研究センター科長などを経て、2006年から現職。共著書に「鳥の自然史―空間分布をめぐって」(北海道大学出版会)、共編書に「自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック」(古今書院)など。きたネット理事長。



在田 一則 Arita Kazunori

(一般社団法人北海道自然保護協会会長)

1941年札幌市生まれ。北大大大学院理学研究地球惑星科学専攻で日高山脈やヒマラヤの地質学(岩石学・構造地質学)的研究・教育に従事。現在は北海道大学総合博物館ボランティア。生物多様性(Biodiversity)を支えるジオ多様性(Geodiversity)に興味を持つ。

【総合討論】



「北海道の自然環境保全のために、きたマップをどのように活用するか」

板垣 佳那子 Itagaki Kanako

(公益財団法人自然保護助成基金研究員)

法政大学人間環境学部卒業後、ニュージーランドのリンカーン大学大学院にて修士号取得(資源学)。現在は自然保護助成基金の研究員(プログラム・オフィサー)として、国内外の自然保護に関する情報の収集・分析、助成事業の企画・運営、助成プロジェクトの管理に携わっている。最近の関心事は地域住民主体の自然保護。

ホームページをチェック!!

http://kitamap.net/

北海道の環境を守る活動が見えてくる～「情報を集め・届ける」データベース「きたマップ」

北海道の市民環境団体の活動情報、179自治体の環境保全に関する条例や施策、環境教育や森林保全活動の実施状況、市民投稿の「守りたい自然」情報など、北海道の環境活動に有用な情報をマップ上で見ることができる。環境活動のデータベースです。地域の様々な情報を地図上で「見える化」。地域の様々な環境活動や産官学民の情報を、一元的に見ることができます。(システム制作協力：株式会社ナブザック)

「北の環境ライブラリ」、「きたカルテ」の設置で、さらに充実

「北の環境ライブラリ」北海道の環境団体、教育機関、地方自治体等が行ってきた、北海道の環境保全に関する様々な情報約2000点を収録、提供しています。地域や発行時期、キーワードなど、各種条件で検索して閲覧が可能です。「きたカルテ」北海道の179自治体の現状を、統計データと地図で見ると、市町村の健康診断書です。人口、土地利用、自然環境、産業などの項目ごとに、市町村の統計データがランキングで色分けされマップが表示され、さらに自治体ごとのデータもダウンロードできます。環境教育や地域計画づくりなどの基礎資料としてご活用いただけます。

きたマップへの環境情報の掲載、データベースシステムを利用したい等のご相談は

NPO法人
北海道市民環境ネットワーク

札幌市中央区南1条西5丁目8番地 愛生ビル5F
電話 011-215-0148
FAX 011-215-0149
E-mail / office@kitanet.org

シンポジウム終了後、懇親会を開催します。

時間 17:30 ~ 19:30
会場 @エンレイソウ(北海道大学内施設)
参加費 2000円(事前参加申込み要)

申込み先
公益財団法人
自然保護助成基金(担当 板垣)

office@pronaturajapan.com

〒150-0046
東京都渋谷区松濤1-25-8 松濤アネックス2F
TEL:03-5454-1789

【主催】公益財団法人自然保護助成基金、一般社団法人北海道自然保護協会、NPO法人北海道市民環境ネットワーク「きたネット」

【後援】環境省北海道地方環境事務所、北海道、公益社団法人日本ナショナル・トラスト協会、環境中間支援会議・北海道(環境省北海道環境パートナーシップオフィス、公益財団法人北海道環境財団、札幌市環境プラザ(指定管理者：公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会)、NPO法人北海道市民環境ネットワーク)

